

魅力ある高校生にインタビュー



明日へ チャンプ

No.207

「好き」を突き詰めて 新たな一步を踏み出す

伊勢崎商業高等学校 2年 ^{はとり} ^{しゅな} 羽鳥 珠夏 さん



「小さい頃から爬虫類が好きです。爬虫類は餌やりや掃除を行う頻度が少ないなど、育てる上での苦労がありません。おすすめです」と爬虫類の魅力を話してくれた羽鳥さん。そんな羽鳥さんは爬虫類の世話をしている中で驚いた出来事があったそうです。

「ペットのヒョウモントカゲモドキの頭に誤って水を垂らしてしまった時に、水がすべり落ち皮膚が濡れなかったことに驚き、爬虫類の皮膚に興味が湧きました」

思わぬことがきっかけで、爬虫類の皮膚の撥水性に気付き、その構造に興味を持った羽鳥さんは、学校内であるポスターを見つけました。

「ヒョウモントカゲモドキの皮膚の撥水性を何かに生かせないかと考えていた時に、次代を担う起業家や画期的なアイデアを県内から発掘するイベント『群馬イノベーションアワード2025』のポスターを見つけました。爬虫類の魅力を広める良い機会にもなると思い、参加を決めました」

イベントでの発表に向け、準備に取り組んだ羽鳥さん。発表を行う上で特に難しかったことがあったと言います。



プロフィール

はとり・しゅな
自宅でヤモリやヘビ、カエルなど10匹以上の生き物を飼っており、今後はフクロウやコモンマーモセット(サル)などを飼いたいと話す。卒業後は動物について学べる学校に進学し、将来は動物園や水族館で働くことが夢。

「3分と短い時間の中でいかに伝わりやすい発表をするかが難しかったです。専門的な内容が伝わらず、もどかしさを感じることもありましたが、先生や周りの人たちから多くのアドバイスをもらい取り入れたことで、伝わりやすい発表ができたと思います」

発表に向けて繰り返した試行錯誤が実を結び、羽鳥さんは見事ファイナリストに選出されました。

「今回の発表では、ヒョウモントカゲモドキの皮膚構造を応用した商品の構想段階までしか盛り込めなかったのですが、今後機会があれば商品の試作品開発にも挑戦したいです」